



「子供の尊い命を守り、無限の可能性を伸ばす」陣屋小学校

陣屋小だより

学校教育目標
かしこく
やさしく
たくましく

令和5年5月1日
第2号

「あいさつ、返事、くつそろえ」あいさつは自己表現の第一歩 校長 保戸田雅之

校庭の木々の緑が目まぶしい季節となりました。令和5年度がスタートして1ヶ月、1年生も学校生活になじんで来たようです。風薫る5月、元気に毎日を過ごしてほしいです。



スモールガーデンのハナミズキ

前任の杉原校長先生から引き継ぎ、できるだけ毎日、正門前で子供たちを出迎え、あいさつを交わすようにしています。ある朝、遠くから「おはようございます。」という元気な声が聞こえてきました。何とそれは、いち早く私の姿を見つけた1年生の女の子の20メートル以上手前からのあいさつだったのです。はつらつとしたその声に、思わず元気が湧いてきました。

陣屋小学校では、今年度、「あいさつ、返事、くつそろえ」を学校の重点目標として掲げました。元気なあいさつと返事、履き物をそろえる心のゆとりと礼儀正しさを大切にしながら、子供たちが毎日、学校生活への期待と意欲をもって登校してくる学校にしていきたいと思います。

およそ400名の子供たちが、全員20メートル手前からあいさつをしたら、きっと大変なことになるとは思いますが、元気な声であいさつができる子は間違いなく学校生活に前向きな気持ちをもってはいるはず。おそらく自分の考えをしっかりと話せる子供です。私も、「声を出してあいさつしよう」と声をかけています。

また、朝、校門に立っている私の前で立ち止まって、「おはようございます。」とおじぎをする子供もたくさんいます。通りすがりに目も合わさずにするあ

いさつよりも、礼儀正しい感じが伝わります。これも、すてきなあいさつだと思います。相手に対してきちんと向き合うというのは、自分の考えを伝えたり、相手の考えをきちんと受け止めたりするうえでとても大切なことです。

陣屋小学校は、掃除の時間に話をしない「無言清掃」に取り組んでいます。私も箒を持って校内を回りますが、このときは、元気な声で「こんにちは」ではなく、黙って目を合わせ、会釈をしてくれる子がいます。これも、その場の状況に応じたすばらしいあいさつです。

これから生きる子供たちには、「何を知っているか」だけではなく、「知っていることを使ってどのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」という視点が必要となってきます。知識だけでなく、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力や人間性を育むことが重要視されています。あいさつは、物事に立ち向かう意欲を表現したり、相手に対する姿勢を表現したり、その場の状況に応じて判断し使い分けたりするなど、自己表現の第一歩であるとと言えます。



すてきなあいさつを陣屋っ子らしさの象徴にして、もっと自己表現ができる子供たちに育てていきたいと思っています。

なかなか手強い 全国学力・学習状況調査

6年生を対象に、全国学力・学習状況調査を実施しました。子供たちの様子を見ながら、私も問題を解いてみました。問題数はそれほど多くありませんが、問題に答えるために読み込む文章や資料がとても多いと改めて感じました。

私たちの周りには、図解や動画等で簡単に情報が得られる便利さがあふれています。しかし、それらばかりに頼るのではなく、自力で文章を読み込む力をしっかりつけなければならぬと思いました。